

<b>1 学校教育目標</b>
生命の尊重・深い愛情を基盤に、幼児児童生徒一人一人の個性や特性を大切にして可能性を最大限に伸ばし豊かな感性を育み、主体的・自立的に生きていこうとする 幼児児童生徒を育成する。

<b>2 本年度の重点目標</b>
(1) 安全で安心な教育環境の整備 (2) 子どもたちの可能性を伸ばし、夢の扉を開く教育活動の充実 (3) 家庭や地域、関係医療機関との信頼関係と連携の強化

<b>3 自己評価総括表</b>						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校 経営	経営方針等の具現化	本年度の重点目標、具体的な努力点等の確実な実践	・安全で安心な教育環境の整備に向け、学校での事故を0にする。	・ヒヤリ・ハット事案はすぐに全体で共有し、再発防止策を確認するとともに、事故の未然発生に努める。	B	・1月末現在、17件のヒヤリ・ハット事案があり、職員間で再発防止策を確認した。大きな事故は1月末現在、0件である。引き続き事故の未然防止に努めていく必要がある。
	働きやすい職場環境づくり	働き方改革を推進することができたか。	・月の残業時間が45時間を越える職員の平均人数を昨年度(1.2人)以下にする。	・職員アンケートをもとにした業務改善に関する研修会を実施し、すぐに改善できる点や次年度に向けた改善点等について改善を図る。	B	・月の時間外勤務時間が45時間を越える職員の平均人数は1月末現在で1.2人(管理職除くと0.4人)である。全職員の平均時間外勤務時間は5月以外は昨年度を下回っており、平均すると約19時間(昨年度約24時間)である。次年度に向け更なる改善を図って行く必要がある。
	地域への理解啓発	信頼される学校関係づくり	・地域ボランティアグループ等との連携し学習の充実を図る。  ・近隣幼稚園、学校、支援学校や児童生徒の居住地校との相互理解を図る。	・定期的に本の読み聞かせや演奏会、ゲストティーチャー(地域人材)と交流の機会を設定する。直接交流が難しい場合は、DVDやオンライン等交流方法を工夫する。 ・事前の打ち合わせを十分に行い、幼児児童生徒が関わることができる活動内容、活動形態を工夫する。	B	・1月末までに、本の読み聞かせ会を8回、校内コンサート5回、ゲストティーチャー(陶芸)1回、調理交流(オンライン)1回等を実施することができた。次年度に向け、更なる直接交流の機会を設定していく必要がある。 ・幼稚部3回、小学部6回、中学部2回の交流及び共同学習を行うことができた。小学部3回以外はオンラインでの交流であったが、ゲーム大会等、内容を工夫し、実施することができた。
		病院等関係機関との連携強化	・幼児児童生徒の現状と目標について、関係する3つの病院とケース会議や情報共有を密に行いながら、具体的な支援につなげる。	・管理職、学部主事主任、担任等それぞれの立場で日々病院と情報共有を行う。 ・得た情報を個別の教育支援計画や指導計画に記述するとともに、各担任同士や学部全体で	B	・校内での出来事について、日頃から病棟や保護者にすぐに伝えることを意識した。入退院の際に行われる支援会議にも積極的に参加し、学校での様子を伝えることができた。 ・校内では学部会等で子どもの様子を共有することで、必要な支援を職員間で連携

				必要な支援を共有していく。		して行うことができた。
授業の 充実	教育課程	教育課程・教育内容の適正化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児児童生徒の的確な実態把握に基づいた教育課程を編成するとともに、指導内容や評価の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任や複数の職員での実態把握や保護者との面談、各病院及び前籍校とのケース会議、訓練見学等を通して的確な実態把握や情報共有を行う。</li> <li>・教育課程及び教育内容の見直しを各学部で定期的に行い、教育課程検討委員会で、学校全体の動きや学部間の系統性について検討する。</li> <li>・各教科における3観点での目標設定や評価、評価の2期制を実施し改善を図りながら授業実践に繋げる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から職員間での情報共有や保護者と個別面談や電話での対話及び関係医療機関と面談やケース会議等を実施することで、幼児児童生徒の実態や情報の共有を図り、授業に活かすことができた。</li> <li>・各教育課程の学習グループごとの評価や学期毎のアンケート結果をもとに職員間で話し合い、次年度に向けた幼児児童生徒一人一人に応じた教育課程を編成することができた。</li> <li>・具体的な目標設定をもとに授業実践、評価、授業改善とサイクルを回すことができた。通知表の見方や内容等については各担任が保護者に対して、丁寧に説明をしていく必要がある。</li> </ul>
	授業実践	授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員が授業実践事例を出し合い、グループ研等において、ねらいや指導内容手だて等について、意見交換を行い授業改善に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践テーマの内容をもとにグループを編成し、よりニーズにあった意見交換ができるようにする。</li> <li>・グループ研で得た意見や課題を全体で共有し、必要に応じて、全体研修等で取り上げ、実践に活かせるようにする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期、後期で実践事例レポート研修を計画し、年間5回実践事例意見交換のグループ研を実施した。テーマの近い職員同士で悩みを共有し解決策等を話し合い、実践に活かすことができた。</li> <li>・事後アンケートをもとに、必要な研修を検討し、グループ研前にミニ研修を実施した。</li> <li>・教師の立場でのICT活用の有用性は分かったが、子どもの立場での学力向上や学習評価として活用できたかは検証が必要だった。</li> </ul>
		ICT活用の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校情報化優良校の認定を受ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校情報化チェックリストで洗い出した本校課題について校内研修等で取り上げ、改善を図る。</li> <li>・ICT支援員と連携し、ICT活用についての相談が気軽にできるclassroomを立ち上げ、職員全員で情報を共有できるようにする。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校情報化優良校の認定を受けることができた。</li> <li>・チェックリストの結果、プログラミング教育についての研修の必要性が分かり、外部講師を招いての研修を実施したことで、プログラミング教育に関する知見が深まった。</li> <li>・classroomを活用して、ICT機器の不具合の相談や周辺機器活用の相談等を自主的に行う様子が見られた。</li> </ul>
	研究の推進	実践的研究の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ研、情報研修等を計画的に設定し効果的なICT機器の活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究のねらい、年間スケジュール等を4月中に全体に周知し職員が見通しをもって取り組</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初の全体研修で、年間計画を周知し、変更点等もその都度周知することができた。</li> <li>・グループ研の前のミニ全体</li> </ul>

			用という視点をもった授業づくりの取組を推進する。	めるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ研の前にその日のグループ研のねらい等を説明し、研究に対しての職員の意識向上を図る。</li> <li>実践レポートを実践集としてまとめ学校ホームページに掲載する。</li> </ul>		<p>研で活動内容を確認、また、各グループに、研究部員1人と司会兼アドバイザー（主事・主任等）を配置し、意見交換の充実を図ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事後アンケート「研修は有意義だったか」の項目で、「非常に有意義、有意義」の合計が、年度当初77%から100%に上昇した。「授業改善に役立ちそうか」の項目で、「非常に役立った、役立った」の合計が、年度当初84.6%から93.3%に上昇した。</li> <li>実践レポートをHPと情報教育に特化したclassroomにアップし、共有することができた。</li> </ul>
キャリア教育 (進路指導)	将来を見据えた取組	キャリア教育の視点に立った授業の実践と改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育についての理解、浸透を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒一人一人のライフステージに応じてキャリア発達スキルの育成ができるように、内容や実践例等を示す。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの実態に応じた方法で授業を行ったり、キャリアパスポートを作成したりすることができた。</li> <li>キャリアパスポートを全職員で共有できるように、保存先を提示するなどして工夫をする必要があった。</li> </ul>
	進路情報・研修	進路情報の収集と発信の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人、保護者、教職員のニーズのもとに進路情報を発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度当初に進路希望調査を行い児童生徒の進路希望を把握した上でニーズに合った進路便りを学期毎に発行する。</li> <li>保護者、教職員のニーズに合わせた進路研修会を実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度当初に進路希望調査を行い、学部に合わせて内容の進路便りを学期毎に発行することができた。</li> <li>職員にアンケートを実施して研修内容の希望を把握し卒業後の生活、就労に関する進路研修を行った。</li> <li>保護者への進路研修会参加の呼びかけが十分ではなかった。</li> </ul>
	高等学校（高等部）進学に関する進路指導	進学に関する情報の収集・発信及び進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の進路実現に向けての体制をつくり進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係職員と進路実現に向けての役割を明確にし、タイムスケジュールや手順を示す。</li> <li>チェック表を活用して進める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>出願の可能性のある学校の資料等を迅速に取り寄せ、円滑に準備を進めることができた。</li> <li>タイムスケジュールやチェック表を活用し、事前に役割分担やすべきこと、準備物等の確認ができた。</li> </ul>
生徒 (生活)指導	安全で安心な教育環境	危機管理対策の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急時の手順情報伝達、役割等機能する組織の充実を図る。</li> <li>食物アレルギー、摂食指導等の専門性向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理マニュアルに関しては、訓練実施後見直しの視点に沿った改善を図り、最新にしていく。</li> <li>研修を実施することで、専門性を高める。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理マニュアルは、訓練実施後に反省を行い、改善に努めることができた。また、年度末に見直しや確認を行い、最新にしていく作業ができています。</li> <li>摂食指導に関する研修を実施することができた。次年度は、アナフィラキシーショックの対応について研修を予定している。</li> </ul>

	環境整備	校舎内外の安全管理及び環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全安心な学習環境に努め、不備があれば早急な改善対策を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月の安全点検を基本に、その都度結果を周知し、早急な対応を事務部と連携して行う。</li> <li>コロナ感染対策の報連相を全職員協力して取り組む。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月の安全点検は、その都度結果を周知し、早急な対応を事務部と連携して行うことができる。</li> <li>コロナ感染対策では、検査キットを頂けたので、各職員安心して職務を遂行することができた。</li> </ul>
人権教育の推進	人権に関する実践と研修等	人権尊重の視点に立った授業実践力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>重点月間の取組をとおして人権尊重の視点に立った職員の実践力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「第三次とりまとめ」を活用して個々の課題や授業目標を明確にした授業実践を行う。</li> <li>「人権コーナー」や「人権だより」を活用することで、情報の発信や共有化を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「第三次とりまとめ」については、県のデジタル教材等を活用することで、分かりやすく、効果的な説明につながった。</li> <li>なかなか知る機会の少ない人権教育の実践について、理解や周知を促す一助となった。</li> </ul>
		職員研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通じた研修会をとおして、職員の人権に関する知識理解の深まりや人権感覚の高まりを推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>充実した実践につなげるため、互いのレポートを読み合わせるグループ別研修会を実施する。</li> <li>アンケートにより職員のニーズを把握した上で、主体的に参加できるような全体研修会を実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ別の研修会をとおして、職員間で有効なアドバイスを共有し合ったり、他学部の状況を確認したりする機会となった。</li> <li>事前にアンケートを実施したうえで、研修会の内容を決定したことで、主体的に研修会に参加することができた。</li> </ul>
	「命を大切にす 心」を育む教育	豊かな感性を育み、知識理解を深めるための教育実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業をとおして、自分や友だちの良さを認め合い、思いを伝え合えるような学校・学級づくりに努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>重点月間の取組を中心に、個に応じた「育てたい資質・能力」を明確にした授業を実施する。</li> <li>人権コーナーを活用し、授業の目標や子どもたちの学習の様子を分かりやすく紹介する。</li> <li>交流及び共同学習をとおして、人とかかわったり絆を深めたりする喜びを実感する機会にする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前に「第三次とりまとめ」の研修を行ったこともあり各学部やグループの実態に即した授業が実施できていた。</li> <li>12月の取組については、多数の写真を使って壁面を構成したことで、子どもたちにとっても関心を引きやすかった。</li> </ul>
いじめの防止等	いじめの未然防止及び早期発見	いじめの防止と子供たちのより良い関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども同士が互いを知り、より深くよさや頑張りを知る機会を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ防止対策委員会を年3回実施し、気になる子どもの様子と対応について専門家に意見を仰ぐとともに全職員で共通理解を図る。</li> <li>毎月1回、執行委員会を中心に全校集会をひらき、子どもの発表やがんばる姿、誕生日等</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎学期実施した心のアンケートの結果報告や対応、各学部での取組について外部専門員から助言をいただいた。委員会以外でも気になる事案があるときは全職員で周知した。今後もより迅速に情報共有し、対応できるように工夫していく。</li> <li>全校集会ではみんなにスポットが当たるように誕生日を紹介したり、お互いの学習の様子を知るために、が</li> </ul>

				を紹介して仲間意識を高める。		んばり動画を視聴したりした。アットホームな雰囲気大切に実施することができた。
		学校と家庭センターとの連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児児童生徒が安心して楽しく学校生活を送れるよう学校・家庭・センターが情報を共有し、子ども理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ防止に関わる資料等を家庭やセンターに配付し、いじめ防止についての啓発を行う。</li> <li>・幼児児童生徒の作品展示について機会を増やしたり、情報を発信したりすることで、学校での学習の様子について知ってもらえる機会を設定する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめチェックシートや家庭教育10箇条等を、各家庭と療育センターに配布した。気になることがあったときの窓口に関して、年度当初にPTA総会で伝えるだけに留まっていたので、ホームページに載せたり、各学部のお便りに掲載したりして周知するべきだった。</li> <li>・美術芸術作品を中心にフォトコンテスト作品なども療育センターに一定期間展示させていただいた。校外の作品展にも複数出品し、本校の教育活動や子どもたちの学習の様子を知っていただくことができた。</li> </ul>
センター的役割の推進	センター的役割の推進	教育相談等への適切な対応及び教育相談の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各校からのニーズに応じた巡回相談や研修等に対応する。</li> <li>・上益城地域連携協議会事務局校として適切に業務を遂行する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前の電話等での情報収集を詳細に行い、部内で事前準備・事後の実施状況の確認、支援の妥当性について確認しながら、相談校との継続的な連携を図る。</li> <li>・校内支援体制を確認の上、巡回相談員の育成のため、複数支援での巡回相談に取り組む。</li> <li>・相談内容によってオンラインでの相談、研修を実施する。</li> <li>・月に1回は、各学校の状況をメール電話で把握する。</li> <li>・上益城教育事務所松橋西支援学校及び上益城療育センターと連携協議会実務担当者会、巡回相談員会議を通して情報共有すると共に、日頃からメール、電話等で連携を密に行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中高校の相談件数は昨年度と比較すると1,5倍(約160件)と増加した。</li> <li>・相談件数が増えたことで、部内で事前・事後の状況の確認がうまく機能することが難しかった(書面での確認が多かった)。</li> <li>・複数人での巡回相談は、予算や校内支援体制等の理由から難しかった。</li> <li>・オンラインでの相談は2回実施した。今後も小中高への理解啓発を図っていきたい。</li> <li>・教育事務所等との連携は、電話やメール等で情報共有が密にできたことで、上益城連携協議会、指導力向上研修会就学前説明会等も滞りなく実施できた。</li> </ul>
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	総合型CSを通じた地域との連携	コミュニティ・スクールの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のビジョンを家庭、地域、関係医療機関と共有し社会に開かれた教育課程を目指す。</li> <li>・本校の教育活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会において本校における現状や課題等を明確化し各委員から助言や御意見を学校経営に反映させる。</li> <li>・創立50周年記念</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会は、第1回は対面で開催することができ委員の方々と直接意見交換できた。委員の方からいただいた意見を行事や日常生活に落とし込み、地域の方々、近隣校との関わりを深めた。交流及び共同学習で</li> </ul>

			<p>動を地域や関係医療機関等に十分広報し本校の理解啓発を図る。</p> <p>式典に向けて本校紹介記事等を新聞等の報道機関に依頼する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校外の作品展等に出品し、理解啓発を図るとともに学校新聞等を豊福・当尾校区に回覧する。</li> <li>・学校HPのブログ「松東ダイアリー」において、日々の教育活動の様子を随時伝える。</li> </ul>	<p>は、昨年度実施できなかった直接交流も小学部では実施できた。事前、事後の打ち合わせをこまめに行いながら、互いの子どもたちの学びを深めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創立50周年記念式典、及び三校合同作品展等の地域に発信する企画を実施することができた。それらの行事や日々の学校生活でのトピックを発信するために、学校新聞、学校HPの充実につとめ、日々の活動の様子を発信することができた。</li> </ul>
--	--	--	--	---

<p><b>4 学校関係者評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域とのつながり重要となるため、松橋東支援学校の子どもがここにいることを発信し、つながりを持ってほしい。</li> <li>・コロナ禍でオンラインによる交流でできるようになったこと、できないことがあったと思う。利便性を生かしながら子どもをどこにつなぐか、1つの大きなシステムとして活用してほしい。</li> <li>・子どもの可能性を高める方法（eスポーツ、オンライン交流等）を工夫するとともに、子どもだから見える視点もあるのではないか。子どもの情報発信力を高めてほしい。</li> <li>・交流及び共同学習では事前・事後学習もあり、子ども同士が寄り添う姿もあった。</li> <li>・地域のプールでの活動等、回数を増やしてもいいのではないか。直接交流は良い機会と考える。</li> <li>・防災は避難ばかりに目が向きがちであるが、初期消火等、初期対応も重要である。</li> <li>・転入が多い中、子どもたちの可能性をのばしていく取組に感謝したい。パスミーティング等、夢や希望を考える取組も大切だと考える。</li> <li>・子どもたちが色々な経験ができるのも安心・安全があつてのことだと思うので安心・安全を第一に考えて取り組んでいただきありがたい。今後も子どもたちの可能性を引き出してほしい。</li> <li>・ICT活用の面で学校情報科優良校の認定を受けて、十分に取り組んでいると思う。今後もICTの重要性が増していくと想像されるので、更なる活用促進を期待する。</li> <li>・ICT活用による学校情報科優良校の認定は子どもたちの将来を見据え、意思表示等の手段獲得にもつながっていくであろうと希望を感じた。</li> <li>・地域支援については今後も需要が高まってくると予想される。多くの職員が経験を積んで地域への支援の取組んでほしい。</li> <li>・地域支援は重要な役割であり、特別支援教育は今後も重要な役割となっていくと考える。専門性向上のための研修をがんばってほしい。</li> <li>・地域支援を具体的にどのように行っているか（特にオンライン相談など）伺いたい。</li> <li>・コロナ禍で近隣校との直接交流や共同学習が難しいこともあったかと思うが、オンラインを活用しながらも交流を行えたことがとても良かったと思う。</li> </ul>
--

<p><b>5 総合評価</b></p> <p>(1) 本年度の教育目標・重点目標について</p> <p>ア 安全で安心な教育環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1月末までに、17件のヒヤリ・ハット事例はあったものの、大きな事故は起こっていない。</li> <li>・保護者アンケートでは「子どもは、健康で安全な学校生活を送っている。」について「そう思う64%」「ややそう思う36%」の回答だった。</li> <li>・引き続き、学校事故0を目指し、事前に事故が予見される事案に素早く対応し、事故の未然防止に努めていく。</li> </ul> <p>イ 子どもたちの可能性を伸ばし、夢の扉を開く教育活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートでは「授業を通して、子どもの力が高まってきている。」について「そう思う56%」「ややそう思う40%」「あまりそう思わない4%」の回答だった。</li> <li>・昨年度まで、自立活動の取組について研究を進めてきた。今年度は幼児児童生徒の可能性を更に伸ばしていくために、ICT活用について研修を推進し、学校情報化優良校の認定を受けることができた。</li> <li>・1月末現在で、転入68件、転出55件、計123件（昨年度117件）の幼児児童生徒の転入があった。今後も保護者アンケートの「そう思う」の割合が更に高まるよう、一人一人に応じた指導・支援の充実を図っていく。</li> </ul>
--

#### ウ 家庭や地域、関係医療機関との信頼関係と連携の強化

- ・保護者アンケートでは「教師は保護者と十分に連携し、保護者の思いに誠意を持って対応している。」について「そう思う76%」「ややそう思う20%」「あまりそう思わない4%」の回答だった。
- ・今後もより、学校と家庭の連携強化に向けて、オンラインを活用した学級懇談会等の実施等の方策を検討するとともに、関係医療機関との定期的な情報交換会等で連携強化を図っていく。

#### 2 自己評価総括表について

- ・今年度は、創立50周年記念式典に向けて、地域のボランティアグループの方等と定期的に松東ファミリーコンサートを開催したり、地域の方とフラワーアートを制作したりするなど交流を深め、無事に創立50周年記念式典（Ⅰ部：式典、Ⅱ部：松東ファミリーコンサート）を終えることができた。
- ・創立50周年記念式典に向けて制作した作品やその他の作品、フォトコンテストの写真等は校内や子ども総合療育センターでの展示会を開催することができ、学習の様子を啓発することができた。
- ・近隣校との交流及び共同学習も幼稚部3回、小学部6回、中学部2回実施することができた。昨年度は全てオンラインで実施したが、今年度は小学部3回は直接交流も実施でき、児童の普段見ることのできない生き生きとした表情を見ることができた。また、中学部ではオンラインでeスポーツの交流も行うことができた。今後も、オンラインの良さは引き続き継続するとともに、直接交流の機会も設定していく。
- ・緊急搬送訓練、火災避難訓練、希望の里合同避難訓練等の各種訓練を重ね、改善点を危機管理マニュアル改訂に活用するとともに、ヒヤリ・ハット事例を共有することで危機管理意識を高めるようにした。その結果、1月末現在の保健室の来室数も昨年度392件から今年度は258件と減少している。
- ・地域支援に関して、1月末現在の担当の上益城地域の小、中、高等学校からの相談件数は約160件と昨年度の1.5倍となっており、本校の地域支援のニーズの高さを示している。

#### 6 次年度への課題・改善方策

##### (1) 転出入者増への対応

- ・1月末現在で、転入68件、転出55件、計123件（昨年度117件）の幼児児童生徒の転出入があった。昨年度から微増ではあるが、月ごとの平均在籍者数は昨年度約33人から今年度は約38人（最大46人）と増加している。学部を超えて指導・支援体制を整える場面も多かったため、効果的な指導・支援体制を検討していくとともに、転出入業務について、一部の職員の負担増とならないよう、業務の分担を図っていく。

##### (2) 授業の充実に向けた対応

- ・これまでの自立活動に関する取組は継続しつつ、次年度は各教科等の指導の充実に向けた取組も検討している。各教科等の指導、自立活動、双方の指導の充実に向けて、効果的な研究体制を検討していく。

##### (3) 働き方改革の推進

- ・月の時間外勤務時間が45時間を越える職員の平均人数は1月末現在で1.2人（管理職除くと0.4人）である。全職員の平均時間外勤務時間は5月以外は昨年度を下回っており、平均すると約19時間（昨年度約24時間）である。次年度から校務支援システムも導入されるため、更なる職員間の業務の効率化に向け取り組むとともに、一部職員への業務負担の偏りを減らすため、分掌事項、担当業務の見直しを図り、業務の平準化を進めていく。

##### (4) 地域支援体制

- ・小、中、高等学校からの相談件数は約160件と昨年度の1.5倍となっているが、校内の指導・支援体制のため、複数職員で巡回相談に出かけることは難しかった。オンライン相談時に複数で対応するなど、地域支援ができる本校職員の専門性向上にも努めていく。